

「六甲ミーツ・アート芸術散歩2022」

第二弾アーティスト発表！

～淀川テクニックなど11組が出展決定～

六甲山観光株式会社（本社：神戸市 社長：寺西公彦）は、2022年8月27日（土）から11月23日（水・祝）まで現代アートの展覧会「六甲ミーツ・アート芸術散歩2022」を開催します。本展は、神戸・六甲山上の各施設を舞台に展示される数々のアート作品を、ハイキング気分で周遊しながら楽しめる現代アートの展覧会です。2010年から毎年開催し、今年で13回目を迎えます。この度、第二弾招待アーティスト11組が決定しましたのでお知らせします。

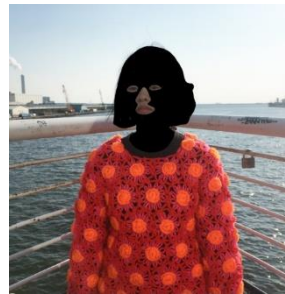
《出展決定 招待アーティスト ※50音順》（2022年6月17日現在）



大西康明



開発好明



谷垣 華



富井大裕



トモトシ



中島和俊



新山 浩 + 神戸市立科学技術高校



袴田京太郎



マキコムズ


三木祐子 + 金崎亮太 studio ART
MANAGEMENT

淀川テクニック
撮影：藤田和俊

※本年は招待・公募アーティスト含め約40組が出展予定です。
各アーティストのプロフィールは次頁をご確認ください。

六甲ミーツ・アート芸術散歩 2022 出展決定 招待 アーティスト

おおにしやすあき

アーティスト名：大西康明

<経歴>

1979年 大阪府生まれ・在住
2004年 京都市立芸術大学大学院
美術研究科彫刻専攻修了

空洞や余白、日常的には意識されないような「間」や「境界」を、接着剤やポリシートなどの形態を定めにくい素材を用いて、行為・現象・時間を要素に、人為と自然、内側と外側、表と裏、あるいはその境界にある形をトレースすることで、それらの関係性を問う作品を国内外で発表している。



大西康明



《石と柵》2022
KYOTO STEAM 2022
国際アートコンペティション
京都市京セラ美術館 東山キューブ

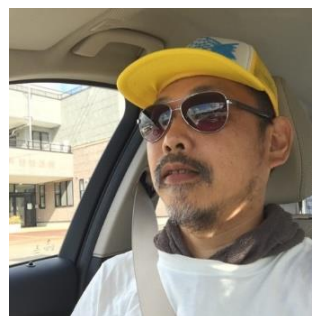
かい はつよし あき

アーティスト名：開発好明

<経歴>

1966年 山梨県生まれ・在住
1993年 多摩美術大学大学院 美術研究科
修士課程修了

観客参加型の美術作品を中心に、2002年にPS1 MOMA「Dia del Mar/By the Sea」、2004年にヴェネチア・ビエンナーレ第9回国際建築展、2006年に妻有トリエンナーレ「越後妻有大地の芸術祭 2006」に出品。また国外では、ベルリンのニューナショナルギャラリーにて「berlin-Tokyo/Tokyo-Berlin」などに参加し国内外で活動している。



開発好明



《スペースホワイトカフェ》
六甲ミーツ・アート芸術散歩 2017

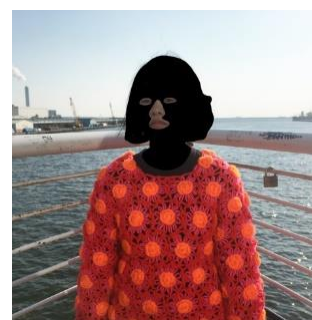
たにがき はな

アーティスト名：谷垣 華

<経歴>

1995年 兵庫県生まれ・在住
2017年 神戸芸術工科大学ビジュアルデザイン
学科卒業

大学時代から本格的に絵を描き始め、以降関西を中心に個展やアートフェアに参加してきました。イラストコースを専攻してきましたが、絵具の塗りや人物のフォルムに魅了されキャンバス作品を主に描いています。現在は植物や海などの自然と人物のモチーフを用い、シンプルな画面作りをしています。



谷垣 華



《枝》2021年
UNKWON ASIA 展示風景

とみいもとひろ
アーティスト名：富井大裕

<経歴>

1973年 新潟県生まれ・埼玉県在住
1999年 武蔵野美術大学大学院造形研究科
彫刻コース修了

既製品に最小限の手を加えることで、それらを固定された意味から解放し、色や形をそなえた造形要素として、「彫刻」のあらたな可能性を模索する。

また、2008年よりアーカススタジオにて、作品が朽ちるまで続く実験的な個展「企画展＝収蔵展」を開催、Twitterにて毎日発表される「今日の彫刻」などと併せ、既存の展示空間や制度を批評的に考察する活動でも注目を集める。



富井大裕



個展「線を重ねる」
(Yumiko Chiba Associates viewing room shinjuku、2021年)
撮影：柳場大

アーティスト名：トモトシ

<経歴>

1983年 山口県生まれ・東京都在住
2007年 国立大学法人豊橋技術科学大学建設
工学課程卒業

2007年に豊橋技術科学大学建設工学課程を卒業後10年にわたって建築設計・都市計画に携わる。2014年より映像インスタレーション作品を制作発表。以来「人の動きを変容させるアクション」をテーマに、主に都市空間を舞台にして制作している。2020年より西荻窪に TOMO 都市美術館を企画運営。
ウェブサイト: <http://tomotosi.com/>



トモトシ



《犬死のトレーニング》2021年
黄金町バザール 2021
トモトシ

なかじまかずとし
アーティスト名：中島和俊

<経歴>

1978年 京都府生まれ・在住
2000年 Academy of art university San Francisco,
USA 在籍

帰国後、鉄骨鳶や大工をしながらアトリエ兼自宅を一人で建設。木津川アートや中之条ビエンナーレなどの芸術祭や個展などで鉄や木を使った彫刻作品を発表。叔父で鉄作家の松岡信夫の影響もあり、鉄でフルオーダーの装飾品や建築金物、家具など制作するブランド“HITTITE”を創業。住宅や商業施設のプロデュースや自社プロダクト製品の輸出なども手掛ける。



中島和俊



《白の回廊》2021年

アーティスト名：

にいやまひろし こうべしりつか がくぎじゅつこうこう
新山 浩 + 神戸市立科学技術高校

<経歴>

1964年 京都府生まれ・兵庫県在住
 1987年 大阪教育大学卒業

作家で神戸市立科学技術高等学校の教員でもある新山浩と、建築を学ぶ生徒達とのアートユニット。六甲山の魅力を存分に生かした大作に挑みます。



新山 浩 + 神戸市立科学技術高校



《六甲美術館》2017 年
 六甲ミーツ・アート 芸術散歩 2017
 photo：長谷川ルウ

アーティスト名：^{はかまだきょうたろう}**袴田京太郎**

<経歴>

1963年 静岡県生まれ・神奈川県在住
 1987年 武蔵野美術大学造形学部彫刻学科卒業

初期にはベニヤ板やメッキ鋼板などの工業製品を素材とし、その後、家具、電気コード、FRP など、さまざまな彫刻らしからぬ素材を取り込んできた。近年では既製の置物などを直接用いて、時に政治性の孕む彫刻の複製性の問題を、色鮮やかなアクリル板を積層させた人型彫刻によって探っている。本物と偽物、また不可視の空洞性という彫刻の存在の危うさを、乾いたユーモアやナンセンスをとともなう独自の方法論で展開させている。



袴田京太郎



《闘う女-複製1、2》2020 年
 （彫刻の壊れ MA2Gallery）

アーティスト名：**マキコムズ**

<経歴>

マスダマキ、カワサキマキにより 2014 年結成

2014 年結成。立体が得意なマスダマキコ、平面が得意なカワサキマキによる主に子ども・遊び・作るをキーワードに展開しているアートユニット。「マキコムズ」は双方の名前からと大人や子ども、周りの人を面白い事に巻き込み、巻き込まれてみよう！という意味も。日常の何気ないことから発想して、巨大な物、長い物、楽しい事、面白い事、バカバカしい事を思いついては、参加型の造形ワークショップや作品にしている。それぞれ二児の母。



マキコムズ



《パタント絵『ツキノワグマ』とパタント絵『シロクマ』》2020 年
 諏訪山動物園アートぶろじょくと/
 神戸/撮影：東野太

アーティスト名：

み き ゆ う こ かなさきりょう た す た じ お あーと ま ね じ め ん と
三木祐子+金崎 亮太 studio ART MANAGEMENT

<経歴>

三木祐子、金崎亮太により 2012 年初演

三木 祐子(作曲家/ピアノ)と金崎 亮太(電子音響音楽家/コンピューター)により 2011 年に結成、2012 年初演。「ヒトが静寂から見つけ出した音楽は、どのような響きを持っているのだろう」という、一つの疑問に対し、ピアノとコンピューターという現代的な解釈と方法により演奏会やインスタレーション作品の発表をおこなっている。近年は、金崎がディレクターを務め、CG モデラーやプログラマーから構成される studio ART MANAGEMENT と連携して、AR や VR などのメディアアート作品の発表もおこなう。



三木祐子+金崎亮太 studio ART MANAGEMENT



《technopera》「AR オペラ TECHNOPERA」2021 年
 メリケンパーク（兵庫）

アーティスト名：^{よどがわ}淀川テクニック

<経歴>

1976 年 岡山県生まれ・鳥取県在住
 1998 年 大阪文化服装学院修了

2003 年に大阪・淀川の河川敷を拠点として活動開始。ゴミや漂流物などを使い、赴いた土地ならではのゴミや人々との交流を楽しみながら行う滞在制作を得意とする。海外での展覧会も多い。その活動はマスメディアで多く取り上げられ、小学校や中学校の美術の教科書でも紹介されている。活動開始当初は友人の松永和也とのアーティストユニットだったが、2017 年からは柴田のソロ活動。近年では環境に関するイベントに招かれることも多い。



淀川テクニック
 撮影：藤田和俊



《宇野のチヌ》2010 年
 （岡山県玉野市宇野港）

【別紙】
『六甲ミーツ・アート芸術散歩2022』開催概要

※2022年6月17日（金）現在の情報です。変更が生じた場合は
公式Webサイト（<https://www.rokkosan.com/art2022/>）で発表します。
新型コロナウイルス感染症の状況により変更する場合があります。



公式 Web サイト

【会 期】 2022年8月27日（土）～11月23日（水・祝）

※会期中無休。ただし六甲山サイレンスリゾートのみ8月～10月の毎週月曜休業
（月曜祝日の場合は火曜に振替休業）

【開催時間】 10時～17時

※会場により一部異なります。

【会 場】 六甲ケーブル（六甲ケーブル下駅・山上駅）、
六甲山サイレンスリゾート（旧六甲山ホテル）、ROKKO 森の音ミュージアム、
六甲高山植物園、六甲ガーデンテラスエリア、自然体感展望台 六甲枝垂れ、
兵庫県立六甲山ビジターセンター（記念碑台）、グランドホテル 六甲スカイヴィラ、
風の教会エリア、六甲有馬ロープウェー 六甲山頂駅
※会場は変更になる可能性があります。

【料 金】 有料会場をお得に巡ることができる「鑑賞パスポート」販売

種類	販売期間	鑑賞パスポート 代金	ナイトパス付鑑賞パスポート 代金
早割	2022年4月28日（木）～ 6月30日（木）	大人（2,000円） / 小人（900円）	大人（2,800円） / 小人（1,300円）
前売	2022年7月 1日（金）～ 8月26日（金）	大人（2,300円） / 小人（900円）	大人（3,100円） / 小人（1,300円）
当日（WEB）	2022年8月27日（土）～11月23日（水・祝）	大人（2,400円） / 小人（950円）	大人（3,200円） / 小人（1,350円）
当日（山上）		大人（2,500円） / 小人（1,000円）	大人（3,300円） / 小人（1,400円）

※大人（中学生以上）、小人（4歳～小学生）

※鑑賞パスポートで有料会場《自然体感展望台 六甲枝垂れ、六甲高山植物園、ROKKO 森の音ミュージアム、風の教会エリア《六甲山芸術センター（六甲スカイヴィラ別館）》、六甲山サイレンスリゾート（旧六甲山ホテル）》にそれぞれ会期中1回の入場（当日は再入場可）が可能です。

※ナイトパス付鑑賞パスポートは有料会場への入場と、夜間作品を期間限定で公開する「ひかりの森～夜の芸術散歩～」会場への入場がセットになったパスポートです。「ひかりの森～夜の芸術散歩～」は9月23日（金・祝）～11月23日（水・祝）の土日祝、17:00～20:00の限定開催となります。ご鑑賞にはナイトパス付鑑賞パスポートまたはナイトパス（大人1,600円 / 小人800円）が必要です。

【主 催】 六甲山観光株式会社、阪神電気鉄道株式会社

【総合ディレクター／キュレーター】 高見澤清隆 インディペンデント・キュレーター

■ 会場とロケーション

「六甲ミーツ・アート芸術散歩」は、六甲山上の観光施設を主な会場としています。
オープンエアな環境で六甲山の自然とアート作品を楽しみながら、会場となる各施設それぞれの魅力もお楽しみいただけます。各会場は、六甲山上バス（路線バス：有料）の他、徒歩での移動も可能です。



自然体感展望台 六甲枝垂れ



六甲ケーブル



1,000万ドルの夜景

■ 出展アーティスト、展示作品について

「六甲ミーツ・アート芸術散歩2022」では、公募によって選出されたアーティストと招待アーティストの作品を展示します。本展は、2010年から毎年開催され、これまで、総勢約430組以上のアーティストが六甲山上で作品の展示を行ってきました。

■ 作品イメージ

六甲山のエリア特性をじっくりと読み込み、自然や景観、歴史を取り入れた作品を各会場に展示します。

1.



2.



3.



4.



- 1 作田優希《ちゃぶ台会議～地球は今も蒼いのか～》
2021年 六甲ガーデンテラスエリア
- 2 穂波梅太郎《僕の話》
2021年 六甲高山植物園
- 3 束芋《オクユク》
2021年 風の教会
- 4 高橋匡太《ひかりの実 in SIKI ガーデン》
2021年 ROKKO 森の音ミュージアム
写真：村上美都

【お問い合わせ先】 六甲ミーツ・アート芸術散歩 2022 事務局

TEL：078-891-0048（平日 10：00～17：00） FAX：078-894-2088

web：<https://www.rokkosan.com/art2022/>